「石を割ってみよう」

竹内圭史[1)]・佐藤大介[1)]・尾崎正紀[1)]・松浦浩久[1)]・青矢睦月[1) 2)]・内野隆之[1)]

チャレンジコーナー「石を割ってみよう」(略称「石割り」)は，地質学会の地質情報展では長年おなじみの出し物であり，一般公開では今回で３回目となります．これは読んで字のごとく，岩石をハンマーでたたいて割る実習です．地質学者にとってはありふれた実習ですが，一般市民にとっては岩石ハンマーを振るう機会は物珍しいことでしょうし，割った石をおみやげに持ち帰れることや，より硬い石，より大きな石を割りたいという挑戦心を満たしてくれることから，子供達に大人気の行事です．

今回も地質標本館前にテントを設け，木枠２台と去年の 12 種類から大幅増の 19 種類の岩石を準備しました(写真 1)．天候は平年なら晴れれば気温 30℃を超えるところ，今回は曇りでなんと 22℃という季節外れの低温で，屋外での実習にはこの上ない好条件でした．曇り空のせいか朝 9 時 30 分の開場後しばらくは来場者の出足が鈍くて気をもみましたが，ハンマーの音が響くと次第に親子連れが集まってきて，いつものようにテントの周囲を取り巻いて順番待ちの長蛇の列ができました．参加者は幼稚園から小学校低学年くらいの子供が主で，男の子も女の子も興味津々で挑んでくれました．今回はご婦人方の参加も多かったように思います．前回と同じ係員 6 人体制で丸一日中，次から次へと石を割りおみやげの石を詰め続け，終了 30 分前に受付を終了してほぼ定刻 16 時に石割りを終了しました. このあたりの運営はすっかり要領が分かってきました．おみやげの鑑賞用にガラス製標本ケースを用意したのが好評でした．

今回は前回の 500 人を大きく上回る延べ 630 人の参加がありました．そのうち石割りはせずにおみやげの岩石だけ選んだ人も 20 ～ 30 人いましたので，実際の体験者は 600 人くらいでしょう．係員が経験を積んで参加者の回転がスムーズになったことと，気温が低くて係員も参加者もハンマーを続けて振っても疲れなかったことが大きな要因でした．ですので，今回の 600 人は今後更新困難な大記録かもしれません．

写真１　左手前の木枠では石を割り終えておみやげ用に破片を選んでいるところ．
右奥では石を持った子供達が順番を待っています．

石を割る際の安全には十分留意しており，木枠は３方向と天井をビニールで囲い岩石の破片が飛散しないようになっていて，参加者は軍手をはめプラスチックの防災面を被って石を割ります．とくに黒曜岩は割れるとガラスの鋭い破片と同じで危険なので扱いには気をつけているのですが，黒曜岩の破片を収めた箱に子供達が不用心に指を突っ込んで破片に触ってしまうので，更なる注意が必要です．

岩石の人気にはかなり偏りがあります．黒曜岩が例年不動の一番人気であり，今回は 208 個と全体の３分の１を占めました．次いで花崗岩類など鉱物の大きい岩石や点紋結晶片岩が人気です．今回は岩石の品揃えが少量多品種だったので，量が少なくて早くなくなってしまったものもありました．次回は良い岩石をなるべくたくさん用意したいと思います．

TAKEUCHI Keiji, SATO Daisuke, OZAKI Masanori, MATSUURA Hirohisa, AOYA Mutsuki and UCHINO Takayuki(2013) Rock hammering practice in AIST open house 2012.

（受付：2012 年 8 月 22 日）

1）産総研 地質情報研究部門
2）現所属：徳島大学

キーワード：一般公開，普及行事，石割り，実習